環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１２８号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
http://kanpachiba.com/

「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」が始まりました

（特非）環境パートナーシップちばは、千葉県内の環境保全（学習）などの担い手不足解消や、2030 年までの SDGｓ達成に向けて、持続可能な多様な視点を取り入れた環境学習プログラム（ESD（Education for Sustainable Development）プログラム）が必要であると考え、2018 年からの３年間事業として「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」を、地球環境基金の助成を受けて、スタートしています。

１年目は、県内で主に環境学習に取り組んでいる団体（個人）に声をかけ、ESD プログラム作りを通して、ESD 地域リーダー（13 名）が誕生しました。成果は「ESD プログラムガイドブック」として取りまとめました。

また、多様な主体（中間支援的な活動団体）16 名が参加し、ESD 地域リーダーが活躍するための場（プラットホーム）づくりについて協議しました。

ニュースレターは、SDGｓ、ESD や事業報告など４回発行しました。

２年目（2019 年度）は、１年目の成果を基に、千葉県内の北部地区を対象にスタートしました。

事業内容は以下になります。

■ＥＳＤ地域リーダー育成事業（船橋地区・成田地区の２地区で実施）

ESD プログラム作りを通して、ESD 地域リーダーを育むことを目的に、団体活動で環境学習等担当している方を募集した結果、船橋地区（８名）、成田地区（７名）で第１回目を開催（だより本号２ページ掲載）しました。

ファシリテーター：石井雅章氏（神田外語大学言語メディア教育センター長准教授）

	主な内容	船橋地区	成田地区
第１回	ESD の視点とは、地域の課題解決と ESD プログラムの紹介	７月14日(日)	７月22日(月)
第２回	ESD プログラムガイドブックを活用した ESD プログラム作成	９月15日(日)	９月30日(月)
第３回	ESD プログラムブラッシュアップ・報告	11 月24日(日)	11 月11日(月)

■ＳＤＧｓを進める ESD プラットホーム づくり（千葉市周辺で実施）

ＥＳＤ地域リーダーが活躍できる場づくりを目指すことを目的に、関心のある団体に募集した結果、26 名（１年目参加者も含む）の申し込みがあり、第１回（７月６日）を開催しました。

ファシリテーター：石井雅章氏（神田外語大学言語メディア教育センター長准教授）

	主な内容	千葉市内
第１回	「SD の重要性とプラットホーム」他	７月６日（土）
第２回	プラットホームに期待するもの、あるべき姿、必要な機能	１０月７日（月）
第３回	プラットホームの運営の在り方について	２月３日（月）

第１回（７月６日）の実施報告は、公開セミナーを聞いた後、SDGｓ達成のための ESD の視点を活かした人材作りの必要性を再認識し、その機能を活かすためのプラットホームづくりを今後協議していくこととなりました。

※SDGｓ公開セミナー２回開催　SDGs や ESD についての周知と交流を目的に開催。

１回目：７月６日（土）午後　会場：千葉県教育会館本館（だより本号２ページ掲載）

２回目：11 月 16 日（土）午後　会場：千葉市生涯学習センター

■ニュースレターは年４回（５月・８月・12 月・２月）発行

内容は、事業実施報告、公開セミナーや SDGｓ、ESD などについて掲載します。

11 月 16 日の SDGｓ公開セミナーは、今後広報をしますので、日程の確保をよろしくお願いいたします。　　（文責：桑波田 和子）

環パちば主催　SDGs 公開セミナー ～ESD／SDGs 理解促進～

７月６日（土）13：30～15：00 まで千葉県教育会館で、表題のセミナーを開催しました。

まず、地球環境パートナーシッププラザ江口健介氏から「持続可能な地域づくりのために～ＳＤＧｓ・ＥＳＤ・パートナーシップの関係性～」と題して講演をいただきました。

ＳＤＧｓは、途上国だけでなく先進国にも山積する課題解決のため、2030 年までに実現したい 17 の目標 169 のターゲットを制定。将来世代を含め『だれ一人取り残さない』の実現には小手先ではなく根本的な「変革」が必要で、個々のターゲットの達成を目指すのでなく、経済・社会・環境の３つを調和させて、トータルとして達成を目指すことが重要。SDGs のロゴマークは、円の中心に「持続可能な地域のテーマ」を置き、他の目標とうまく関係性をもって実現することが必要ということを表している。

ESD は、持続可能社会づくりに取り組む担い手を育む教育であって、パートナーシップは、地域のさまざまな専門性を持った人たちが一緒になって、必要な役割・利用可能な資源を動員し、持続可能な地域の実現をめざすことを言っている。終わりに、「我々は地球を救う機会を持つ最後の世代になるかもしれない」という言葉で締められた。

続いて、認定 NPO 法人アクト川崎の竹井斎理事長から、「私から！はじめる·つながる・エコシティかわさきへ！」と題して活動事例を紹介いただきました。法人活動として、川崎市における温暖化防止活動推進のため、リーダー育成講座で地域活動の計画立案や、活動実施サポート他を行っている。川崎市も 2019 年に「SDGｓ未来都市」となったが、それまでの活動から得た『活動は一人ではできない』を基本にさらに進めていきたい と話された。

（文責：川島 謙治）

「ESD 地域リーダーになりましょう」 ―重政子さんの講演から―

「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」2019 第１回（７月 14 日、７月 22 日）では、当会の理事でもある ESD-J の重政子さんに基調講演をしていただきました。

まず、1980 年に SD（持続可能な開発）の概念が示され、2005 年に国連「ESD の 10 年」が日本の提案で始まり、2015 年に SDGs が採択されるという背景と流れの説明があり、SDGs と ESD の関係性は、SDGs 実現のための ESD、すなわち ESD の推進を通して私たちの望む未来につなぐ、ということだと学びました。

ESD 地域リーダーになるためには、「何を教えるか」ではなく「どう学ぶか？」、「どんな能力を身につけるか？」ではなくて「自ら課題を発見し、解決策を考えられる能力を身につける」ことが必要。学校現場では（Development：開発 という訳語のために）なかなか ESD という概念が浸透していかなかったが、学習指導要領改訂により「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、Active Learning に変わりつつあるそうです。

後半は、NPO 法人えひめグローバルネットワークの「銃を鍬へ」のプロジェクトと、第 21 回日本水大賞（グランプリ）を受賞した山陽女子中学校・高等学校地歴部の「瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦」の活動を例にして、SDGｓと ESD の視点とはどんなことなのかを具体的に示していただきました。これによって、前半でお聞きした内容が、頭の中で消化されてすんなり入っていけたような気がしました。

ESD も SDGｓも、講演を１回聞いたり本を１冊読んだからといって完全に理解できるというものではなく、「これは SDGｓ（ESD）の考え方に合っているか」を常に自分で確認しながら行動していくうちに、少しずつ自分のものになっていくのかもしれない、というのが、私が講演で学んだことでした。

(文責 小倉 久子)

ナガエツルノゲイトウ駆除作戦参加報告

６月８日（土）、梅雨空の下で印旛沼流域水循環健全化会議主催「令和元年度第１回桑納川ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦」に参加しました。桑納川（八千代市）において午前 9:30 から作戦が展開され、参加者は行政、企業、市民団体、大学生等総勢 111 名です。

中でも、NPO 法人国際ボランティア学生協会所属の大学生 26 名と中央学院大学生６名の参加は全体の３割を占め大きなエネルギーとなりました。

ナガエツルノゲイトウ駆除手順は、①胴長着用で川と船上から岸辺に寄せ集める、②岸辺から鍬や鎌で引き上げる、③土嚢(ﾉｳ)袋に詰め込む、④袋を土手上に運び上げる、⑤袋をトラックで回収するの分業作業です。他に、テレビ収録も入り一大イベントとなりました。

私の担当は、すくいあげられたナガエツルノゲイトウを土嚢袋に詰め込む作業です。この作業は泥水が全身に跳ねるので顔もシャツも全員が泥パックです、しかし和やかな会話と学生たちのピチピチとした動きにつられて重労感覚は飛散しました。土嚢袋搬出量は 400 袋以上と発表がありました。

今回の参加で感じたことが二つあります。その１、駆除作業最中、川に浮かんだペットボトルと、堤防に投棄されたプラスチックゴミが非常に目立ちました。そこで同時にゴミも処理をし、併せて、田んぼのシラサギと、葦原のヨシキリを景観に添えれば憩いのリバーサイドに生まれ変わる・・・？その２、学生さんの健闘ぶりです。川の中で首まで浸かって泳ぎながらナガエツルノゲイトウを岸辺迄集めてくれたことです。それも女子学生も加わっての健闘ぶりには敬服しました。作業終了後温かい風呂でくつろいでもらいたいな～と思いなら帰途につきました。　　（文責：萩原 耕作）

第 71 回エコサロン

～私たちの生活とマイクロプラスチック～

６月 29 日（土）、東京理科大学理工学部土木工学科の二瓶 泰雄教授をお招きし、千葉市美浜区の TENT 幕張で、標題のエコサロンが開催されました。

前半は、「かぎりなく広がるマイクロプラスチック汚染ー汚染の実態とその由来ー」をテーマとした講演でした。

マイクロプラスチック（MP）とは直径５㎜以下のプラスチック片のことで、二瓶先生の研究によると、河川から海洋への MP の直接流出が示唆されており、ポイ捨て以外にも、バケツやコーン等の日常使うものの破片や、衣服の洗濯により排出される化学繊維などのファイバー材質くずが MP となり、それらが無意識に流出されているとのことでした。

また、プラスチックの長所である「軽い」「水に強い」「高い恒久性」が、「遠くまで運ばれる」「環境中にいつまでも残る」「いったん環境中に出ると影響は広範囲かつ長期化する」など環境には負の影響を及ぼすこと、また、プラスチックは水中の汚染物質を吸着して有害化学物質を運ぶこと、海洋生物がそれを摂食することで生物濃縮が起こり、プラスチックは排出されるが有害化学物質は人体へ移行する可能性があることが分かりました。

後半は、脱プラ生活チェックシートを使い、よく使うプラ製品の期間別使用量を算出後、代替策を考えるというワークショップでした。が、皆さん思うことがたくさんあったようで、プラスチックに関する熱いグループ討論の内容について発表するという、いつの間にか課題のワークとは違うものとなっていました（笑）。先生は苦笑いでしたが、プラ生活をみんなで考える良いきっかけになりました。　　（文責：荒川 薫）

講師の二瓶泰雄先生

ワークショップ
（どんなプラスチック製品を使っているか、考えてみよう）

環境省主催エコライフ・フェア 2019 に参加して

６月１日・２日に代々木公園で開催されたフェアの初日、「3R クイズで de ビンゴゲーム　～ごみが資源になる！？～」（NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット出展）のゲームスタッフとして参加させていただきました。

テーマは容器包装リサイクルの普及啓発です。一例ですが、家庭でボトル入りのシャンプーを使い切ったとき、ボトル入りではなく詰め替え用パック入りのものを買うと、ごみになるプラスチック量はどれぐらい減らせるかというクイズです。答えは約 80%減ですが、具体的な数字は説得力があります。3R の知識だけでなく実践が今や現代人の義務。容器包装プラスチック、ペットボトル、アルミ缶・スチール缶、紙類（飲料用紙パック、段ボール、紙製容器包装）、ガラスびんが容器包装リサイクル法の対象です。

私が住む千葉市では「容器包装プラスチック」の回収はありません。自治体によって資源・ごみの回収方法は異なりますが、その背景には自治体の規模や回収方法、業者、処理ルートなどがあります。家庭からでるごみの５～６割が容器包装という数字もあります。分別が定められた地域でもルールに従って一つひとつを「きちんと分別」し「出す」ことは案外難しいものです。

フェア会場のフードコーナーでは、自分が買いたい食べ物を決めてからリユース食器の貸し出しコーナーでメニューにあった食器を求め、食事後に食器を返すデポジット制です。最後は小さくカットされた古布でサッと食器をふき、スマートに返却します。

「最後の始末まで自分の責任」と自覚することが、そもそも大切な姿勢なのだと思います。

（文責：中村 明子）

国立環境研究所公開シンポジウム 2019 に参加して

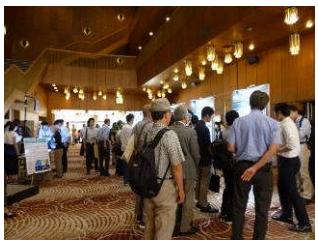
国環研の公開シンポジウム（６月 21 日：メルパルクホール）に参加した。今年のテーマは「変わりゆく環境と私たちの健康」で、以下の５題の講演と 22 題のポスター発表があった。

- 子どもの環境保健　―わたしたちの未来について―
- 子どもの健康と環境に関する全国調査 ―エコチル調査から研究成果の紹介―
- 身の回りの製品に含まれる化学物質のちょっと気になる話
- 人の温度と地球の温度 ―私たちは地球温暖化の暑さに適応できるか？―
- 外来生物および人獣共通感染症がもたらす健康リスクとその管理 ―ヒアリとマダニを例に―

２番目の講演はエコチル調査の研究成果の紹介であった。エコチル調査というのは全国で 10 万組の親子の協力を得て、胎児期から小児期（13 歳）まで、お母さんの妊娠中の血液中の金属・農薬などの濃度と子供の育ち方（成長度合い、喘息など）との関係を観察するという、非常に大掛かりな調査である。開始後 10 年目ということだが、膨大な調査データの解析は、まず鉛やカドミウムなどの金属との関係が解析できたところで、有害化学物質の影響については、まだまだ時間がかかるようだ。このエコチル調査の結果を聞くのが今年の大きな目的だったのだが、やはり、解析結果が出てくるまでに時間がかかりそうだ。でも、このような地味で大掛かりな調査こそ、国環研のやるべき仕事だろうと思う。

最後の演者は、ご存知、ダニ研究者の五箇さん。グローバル化により新しい（外来の）生きものたちがどんどん地球上に拡がって、（人間にとって）悪さをする。グローバル化に加え、温暖化により今まで生息できなかった生物も定着・増殖できるようになり、人間の脅威となるという。五箇さんのテンポのよい語り口に会場全体が大いに盛り上がったところで、５つの講演が終了した。

（文責：小倉 久子）



ポスター発表の様子

講演会場

浦安市三番瀬環境観察館がオープン

浦安三番瀬を大切にする会　今井 学

令和元年６月２日に待望の三番瀬環境観察館がオープンしました。浦安市日の出７丁目の海に面した堤防沿いの２階建ての建物は２階のサンルームから三番瀬が見渡たせ、バルコニーでは日ざしと潮風を全身で感じることができる一見リゾートコテージ風の洒落た建物になっています。広さが約 270 平方メートルの建物の１階には観察会などで使用できる洗い場やシャワールームがあり今後の観察会で小さなお子さんも安心して参加できます。２階には前述のサンルーム・バルコニーのほかに多目的室があり環境の保全に関する活動や環境学習の場として利用できます。

市長をはじめ関係者一同によるテープカットセレモニーの後、観察館のお披露目が行われオープン記念イベントとして、うらやす三番瀬感謝祭（例年浦安三番瀬クリーンアップ大作戦としてこの時期に開催していたイベントを今年から名称変更）が開催されました。恒例の市民参加によるクリーンアップ大作戦の後、干潟観察会が行われマハゼをはじめマダコやマメコブシガニなど数種類の干潟の生き物を観察しました。

多目的室では貝殻アートや野鳥観察のコーナー展開があり、多くの参加者を楽しませました。環境観察館では双眼鏡や望遠鏡の貸し出しもありいつでも三番瀬の鳥を身近に楽しむことができます。

浦安市では今後県と干潟へのアプローチについて協議を進めデッキなどを追加することにより、より安全に海に触れられるようにしたいと考えているようで、これから行われる外構工事を含め最終的に整備終了までにはもうしばらくの時間がかかるようです。

これから環境観察館を使って観察会などが予定されていますが、一人でも多くの方に東京湾の最奥部に位置する三番瀬に触れていただき、そこに住む生き物と三番瀬が果たしている大切な役割そしてその存在意義を考える機会につながることを期待しています。

CRS-NPO 未来交流会

浦安三番瀬を大切にする会　今井 学

令和元年７月 18 日にCRS-NPO 未来交流会が弘済会館で行われた。主催は東京湾再生官民連携フォーラム、協力は経団連自然保護協議会と一般財団法人セブンーイレブン記念財団。

今回は「海ごみ・海洋プラスチック対策考～海ごみ・プラスチックゴミと私たちのライフスタイル　その減量作戦～」のテーマで環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室室長 中里靖氏が「日本の海洋ゴミ対策の現状と今後の課題」、次いで日本プラスチック工業連盟専務理事 岸村小太郎氏が「日本プラスチック工業連盟の海洋プラスチック問題への取り組み」、東京理科大学理工学部土木工学科教授 二瓶泰雄氏が「陸域～河川～海域のマイクロプラスチック動態、DEXTE-K 西なぎさ発：東京里海エイド主宰 橋爪慶介氏が「海ごみ　マイクロプラスチックの取り組み」、国土交通省港湾局海洋・環境課港湾環境政策室室長 成川和也氏が「港湾における海ゴミへの取り組み」とそれぞれの立場での取り組みについて講演。

引き続き情報交流で私から「浦安三番瀬プラごみ一掃作戦」、NPO 法人　荒川グリーンエイド・フォーラム藤森夏幸氏が「荒川グリーンエイド・フォーラム～活動の輪を広げるための新たなNPO 法人」、神奈川海難救助隊理事　小川　茂氏が「浮遊ゴミ回収と海上安全」、最後にプラスチック・スマートフォーラム事務局・日本環境衛生センター部長の村岡良助氏の「プラスチック。スマート活動の紹介」のプレゼンテーション。その後５つのグループに分かれての情報交流会では短い時間ではあったが活発な情報交流がされ大盛況のうちに終了した。

「新しい街づくりの拠点へ」　～TENT 幕張

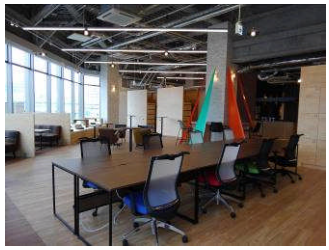
近年、働き方の多様化が進んでいる影響もあり、コワーキングスペースが増えつつあります。コワーキング（Co-working）の「Co」とは「共同」、コワーキングスペースは「共同で仕事をする場所」を意味しています。

そして今年４月、JR 海浜幕張駅から徒歩 10 分の新しい街「幕張ベイパーク」の入口に、コワーキングスペース&シェアキッチン「TENT 幕張」がオープンしました。テレワーク、時短勤務、フリーランスなどさまざまな働き方があるなか、TENT 幕張は、職場や自宅以外で仕事ができる環境を整えた会員制の施設として創られました。

テレワークオフィス、副業・復職準備・スキルアップの支援、新規ビジネスの創業拠点、さらには趣味の場などとしてサポートしつつ、各種セミナーやワークショップ、イベントなども開催しており、“みんなの活動拠点をみんなで創る”をコンセプトに、コミュニティづくりも積極的に行っています。

また、幕張新都心文教地区に隣接していることから、インターナショナルスクールや中学校、高等学校、大学などの教育施設が近くにあり、さらに、幕張メッセ、ZOZO マリンスタジアム等の各種スポーツ施設など、多くの人が行き交う場所も近隣にあることから、情報発信・受信がしやすい場所でもあります。

オープン当初は、新しい街ということもあり道に迷う人続出でしたが、それも乗り越え（？）、環パちばでも運営委員会やエコサロンの開催場所として、すでに何回か TENT 幕張の会議室やイベントスペースを使っています。非会員でも利用できるため、立地条件をうまく生かし、皆様の活動やイベント情報などを発信する際に、ぜひ利用してみてはいかがでしょうか。　（文責：荒川 薫）



コワーキングスペース

イベントスペース

関東 EPO パートナーズミーティング 2019　参加報告

日時：令和元年７月８日（月）
　　10：30～16：30
場所：東京ウィメンズプラザ　ホール・視聴覚室
主催：環境省関東地方環境事務所／関東地方環境パートナーシップオフィス（関東 EPO）

開催の趣旨は、関東地方の１都９県の中間支援組織、興味関心のあるあらゆるセクターの方に参集いただき、「関東 EPO パートナーズミーティング」と称して、地域の課題やさまざまなテーマを囲む場づくりを設けた。今年度は、「地域循環共生圏」という概念や具体的な地域の課題解決のヒント、アイディアを盛り込んだ内容としたとのことです。40 名近くが参加し、講演など聞いた後、グループに分かれ、ワークショップで活動のヒントや交流など行いました。

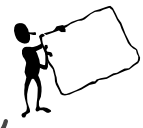
プログラムは、

①SDGs と地域循環共生圏がわかる！
　基調講演１「地域循環共生圏の実現のための地域での実践とは」
　　環境省大臣官房 環境計画課 企画調査室長／岡野隆宏氏

②地域をデザインする中間支援機能が学べる！
　【事例紹介】
　「環境・農業・観光が調和した岩室温泉街の持続的なまちづくり」／SHE プロジェクト（新潟）
　「やまなし水源地ブランド推進協議会」／NPO 法人 木 net やまなし
　【ワークショップ】
　２件の事例紹介を踏まえてワークショップ
　“地域の資源の好循環を生むために必要な中間支援機能とは？”

参加しての感想は、環境省の地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs 構想）が実現するには、「SDGs って、どうやって地域で取り組むのだろう？」との思いで活動していくことが実現につながる。事例紹介の２例からも、思いを形にしていくことで、多様なつながりと広がりが生まれるが、そこには戦力が重要と改めてパワーをいただいたミーティングでした。　（文責：桑波田　和子）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　51　―
おききしました！　この人・この団体



風呂の前里山保存会プロフィール

風呂の前里山保存会　中山美代子

風呂の前カタクリ自生地復元・保全活動

発端は、１５年前の早春の散歩中、カタクリに出会ったこと。しかもほど遠くない自宅近くの里山で咲いている、盗掘跡が鮮明、途中で茎折れしたカタクリが放置されていたことも保存活動に連なる一因となり、風呂ノ前（風呂ノ前は地名、土地の小字）のカタクリとの縁の始まりとなった。

地主さんのお話を聞くうちに、その昔、その場所が赤紫色に染まるほどの自生地と知り、再生したい・来年もこの地でカタクリに会いたいという心情・気持ちがぐっと確固たるものとなった。しかし場所は長く放棄された雑木斜面林です、作業は簡単ではなく気持ちがくじけることも再三。作業を重ねるごとに参加者が減り、作業の進捗ままならず迷うことしばしば。気持ちだけが先走りして作業用具も知らず、作業も素人、単なる自己満足の世界で、今顧みると反省することばかりです。

里山で作業と併行して、情報収集をするうちに、ヒントが灯るようになり、翌年に会を設立し会員を募り、活動資金を得るために行政、企業に協力を求めるなど里山作業以外の会の運営にかかわることも併行してきました。運営や資金獲得など全く未知の世界でしたが、**この地で**カタクリが見たいという好奇心が強く幸いしました。

1. 里山作業については

特にカタクリの保護については、隣町の千葉市の泉自然公園にお教えを乞いました。作業の最中、にも迷うことがあれば直ちに相談に乗ってもらうなど、豊富な情報量をいただいてとても感謝しています。

2. 活動資金獲得については

日ごろから新聞、行政の広報紙等に目を留めて、また先輩格の里山団体にも情報交換をお願いして補助金を主な活動資金にしました。そのころ、千葉県が生物多様性推進戦略を策定し、地元の市原市も里山団体に豊富な支援があったことも幸いしています。

3. 会員を募るに関しては

一番苦しんだ課題でした。里山清掃・整備に加えて、植物の知識も必要でした。その対策として、観察会講師とともに、関東の他のカタクリ自生地に研修会と称して行き、学び、他方里山作業は地主、地元の農家さんより教えていただきました。今の時代では馴染みの少ない、泥を被る作業であることも会員参加のマイナスの一因でした。

活動３年目辺りから、盗掘対策を兼ねた見守り、四季毎に自然観察会を開き啓発活動を行ってきましたが、そのことは会員の植物についての知識を確実なものに役立ちました。年を重ねるごとに早春になるとカタクリ等の多くの貴重種の種類や数の増加が確実なものと実感できて、会員の活動への意識向上につながりました。

さて、活動を始めて１５年目の今年に入り、会の様相は様変わりし、会員は高齢化、新規加入者は乏しく、先行きの不安が見え隠れするようになってきています。そんななか、サプライズ、嬉しいニュースが飛びこんできました。

平成３０年度千葉県環境功労者知事感謝状の受賞→森田健作千葉県知事より今年の令和元年、(一社)全国森林リクリエーション協会の美しの森つくりコンクールで奨励賞の受賞と→会長の世界の三浦雄一郎さんより。

この２つの受賞は、会員たちに喜びや、勇気や励ましをもたらすことになりました。長くやってきたことが間違いではなかったこと、歩んできた道のりが決して平たんな道ばかりではなかったこと。泥をかぶってきた作業の日々や、活動が誤解を受けて困惑したことなど多くのことが脳裏に浮かんだことと思います。

カタクリ

風呂の前の里山保存会

運営委員会報告

６月運営委員会

日時　６月１３日（木）10:00～13:00
場所　ＴＥＮＴ幕張

【報告】
・総会後報告
・だより 127 号・ESD 担い手育成事業案内 発送
・いちはら環境フェスタ実行委員会報告
・ナガエツルノゲイトウ駆除６/8
・県情報公開推進会議委員推薦
・エコメッセちば実行委員会　・その他

【協議】
・エコメッセちば出展内容
・SDGｓフォーラム開催 10/20
・エコサロン　・だより 128 号
・ＳＤＧ達成のための ESD 担い手育成事業運営
・いちはら環境フェスタ 9/21
・千葉市公民館講座　・その他

７月運営委員会

日時　７月１１（木）15:00～18:00
場所　ＴＥＮＴ幕張

【報告】
・ＳＤＧｓ達成のためのＥＳＤ担い手事業 7/6
・関東パートナーズミーティング（第４回目）7/13
・エコサロン　6/25
・ＧＥＯＣ　堂本氏ほかの鼎談　6/14
・いちはら環境フェスタ出展　9/21
・千葉市公民館講座　・環境教育関東ミーティング
・その他

【協議】
・SDG 達成のための ESD 担い手育成事業運営 7/14・22
・エコメッセ 2019 in ちば出展内容検討　10/20
・ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン
・その他

お知らせ

第９回Ｅボート千葉大会参加者募集

日時：10 月 13 日（日）10：00～15：00
会場：フェスティバルウオーク蘇我（千葉市中央区）
主催：第９回Ｅボート千葉大会～ハーバーシティ蘇我～実行委員会
参加費：1チーム5,000円。（個人参加800円/1人）
参加申込：info@eboatchiba.com

HP：eboatchiba.com
申込受付期間：7 月 1 日～9 月 25 日（先着順）
協賛：千葉県　千葉市　印旛沼流域健全化会議
NPO 環パちば他

東京湾ぐるっとスタンプラリー開催のご案内

東京湾の魅力発見！！
いろいろな施設をめぐって東京湾の自然を楽しもう！
スタンプを集めて、オリジナルグッズゲット
実施日：2019 年 8 月 1 日～11 月 30 日
※スタンプを集めるために施設利用料が必要な場合があります
主　催：　東京湾の窓 プロジェクトチーム
共　催：　国土交通省関東地方整備局　東京湾再生官民連携フォーラム

詳しくは
http://www.tbsaisei-csr.net/stamp/
（東京湾再生官民連携フォーラム）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
http://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。